

国際広報メディア専攻

平成 29 年度

前期

日本語論述

10:00～12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙は、この紙を含めて2枚ある。
3. 解答用紙（25字×40行＝1000字）は、2枚ある。
4. 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題1～4のうちから1題を選択し、1600～2000字の日本語（横書き）で解答しなさい。
なお、適当な位置で改行して段落に分けること。また字数は改行による空白を含めて計算する。

【問題1】

情報技術の著しい発展により、対人コミュニケーションの一部は近年、電子メールやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）に代表されるような、コンピュータを介して行われるコミュニケーション（CMC=computer-mediated communication）手段により行われるようになった。コンピュータを介したコミュニケーションは、既存の対面（FtF=face-to-face）コミュニケーションと比較するとどう異なるのか。対人関係の形成・維持においてこれら二つの異なるタイプのコミュニケーションが持つ機能上の利点と欠点、そして人間や人間関係に及ぼす影響という点での利点と欠点を挙げて説明しなさい。その議論に基づき、対人コミュニケーションにおけるCMCの利用について今後の望ましいあり方を論じなさい。

【問題2】

近年、大手の放送メディアが視聴者から投稿された動画を活用したり、積極的に募集したりするようになってきている。またSNS上で、事件や事故の現場がそこに居合わせた人々によってライブ動画機能を使ってそのまま中継されるような状況も生まれている。このような事態の背景、利点、そして考える問題点について、メディアリテラシーと市民ジャーナリズムの観点をふまえて説明しなさい。

【問題3】

人工知能（AI）やロボットの普及によって、自動化やサービスの大幅な向上が期待されている。また、一方で、製造業のみならず接客やサービス業などコミュニケーションを含む仕事が機械で代替される可能性も大きく、大幅な雇用減も予測されている。このような技術革新に対する、あなたの将来の見方について、具体例を挙げて述べなさい。

【問題4】

甚大な被害をもたらす大地震など大きな災害の発生に際しては、被災者による情報発信、被災地の復興支援、被災の記憶の共有など、被災地の支援を目的としたさまざまなインターネット上の取り組みが行われている。上記三つの取り組みからひとつを選び、具体的な事例を挙げながら、インターネットを通じてどのような被災支援が可能か、その仕組み、これまでに行われていることがらやその成果、今後さらに検討すべき課題について述べなさい。